

あぶらつぼ

『緑の油壺を守る会』



シラサギ



メジロ



カワセミ

アオスジアゲハ



ヤマユリ

ゴマダラチョウ



アカサシガメ



ニイニイゼミ



ヌマエビ



マダコ

since 2008
vol.1

あぶらつぼ

『緑の油壺を守る会』

会長 大森英理亜

顧問 北方謙三



美しい緑に囲まれた油壺！

この緑を次世代に残すために活動しています。

豊かな緑、海を観察し、四季を通じて自然を肌で感じる観察会を行っています。

いつもとは違った目線で、改めて自然の大切さを感じることができる、そんな会を目指し、活動しています。

あらゆる生き物が命の大切さを力強く教えてくれます。木々の声を聞き、大地の香りを感じ、地球の鼓動を感じてみませんか。

自然を愛する方ならどなたでも参加できます。

〒238-0225

三浦市三崎町小網代1257-10アオラ内「緑の油壺を守る会」事務局

メールアドレス midorinoaburatsubo1@nifty.com

ブログアドレス <http://midomido.exblog.jp/>

みなさまの寄付により運営しています、ご協力をお待ちしております。

ゆうちょ銀行 総合口座 10270 92184771

「緑の油壺を守る会」



こんな活動をしています



第1回観察会

油壺湾へ続く小路を観察

森林浴を楽しみながら、植物・生物・歴史を学びました。

その後はヨットに乗り、船上から緑を眺めました。海風は心地よく、また普段では見られない視線での素敵なひと時となりました。

第2回観察会

ゴミ拾い

このような形で自然を守ることも大切です。



第3回観察会

深まる秋を観察

集めた落ち葉をパウチにして”しおり”を作りました。

署名活動

緑を守るため、開発阻止の署名活動をしています。すでに、多くの方々の励ましとご協力を頂いております。引き続き、よろしくお願いいたします！

今後の活動予定

四季折々の観察会及び自然アート、写真展・音楽会フリーマーケットなどを予定しております！

皆様のアイデアを募集しています！



※油壺湾は、都心から間近な場所に奇跡的に残されたオアシスです。

ここ油壺は、古代は縄文時代から人々が生活していたことが、遺跡からわかっております。

戦国時代には、三浦一族の繁栄と終焉の舞台となりました。

明治時代には、日本で最初の験潮所が建てられ、海拔0メートルの基準となっております。

また同時代に日本では始めて、世界的にも初期に設けられた東京大学臨海実験所は、海洋生物学の歴史にも大きく影響を与えております。

第二次大戦中は、特殊潜行艇「海龍」の基地として利用されておりました。

小さな湾ですが、歴史、文化に大きく関わっています。

この湾は、油壺と言う名前からもわかるように、天然の地形に守られ、風や波の影響を受けることが少なく、穏やかな湾です。

その水面の静けさと美しさを、詩人、北原白秋も詠んでおります。

「あぶらつぼ しんととろりとしてふかし
しんととろりと そこからひかり」



現在は、その天然のリアス式の地形を利用し、神奈川県管理のヨット、プレジャーボートの特別泊地として、利用されています。

また、台風時などは、避難港として、200隻以上の漁船が利用しています

港として利用されている油壺ですが、天然の地形をほとんど壊さずに利用しているため、岸辺に迫る深い森と海との絶妙なバランスが保たれ、アカテガニやクサフグ、カワセミなど、自然の岸辺を利用し繁殖し、給餌する生き物たちの生活の場を守っております。

また、その景観は、「**かながわの景勝地50選**」にも選ばれており、三浦市も、「三浦市みどりの基本計画」の中で、油壺周辺保全配慮地区とし、自然、歴史、景観ともに重要な地区とし、その保全への配慮が必要であるとしています。



※この油壺にも開発の波が迫っています！

ところが、平成19年突然、この油壺に大規模な開発の計画があることがわかりました。

その開発を可能にするためには、県道216号線から油壺湾に下る市道654-1号線の拡幅が必要になります。

三浦市は、その市道を、業者からすでに受納した寄付金で作ろうと、市道654-1号線道路拡幅と延長を計画していることがわかりました。

その計画は、油壺湾北側を6メートルの舗装道路で囲むというものです。

この道路計画には、地方からも反対の声があがっており、市民のための計画ではありません。

そんな道路が出来れば、森と海が分断され、現在の生態系が壊され急速に自然破壊が進んでしまいます。

また、大規模な開発が可能になり、古代から今まで奇跡のように守られてきたこの環境が、失われてしまいます。

二十年以上前ですが、湾の護岸工事が行われ、アカテガニが激減してしまいました。

※一緒に守っていきましょう！

私たちは、この奇跡のように残された素晴らしい環境を壊すことなく、次世代に受け継いでいかなければならないと思います。

失ってからでは間に合いません！

ぜひ、この「緑の油壺」を守る活動にご参加ください。

